



ファッション素材の
ちょっと・ウンチク

カシミア



まず名称のことで「カシミア」(Wiki等)と表示されていることもありますが、日本の法律で定められた繊維製品表示規程では「カシミア」と表示するように定められています。

カシミアのルーツは、インド北部のカシミール地方に生息する山羊の和毛(にこげ:皮膚に近い柔らかな毛)を梳いて採集した繊維のことです。

カシミール地方は、標高4000メートルを超えるヒマラヤ山脈にあり、カシミア山羊の毛を採集することはとても困難なことから、高価な「繊維の宝石」として貴族に愛されていました。

近年になって、中国の内モンゴル自治区の高原地帯で養殖されるようになり、大量に生産されるようになったことから、大衆ファッション素材として普及するようになりました。

しかし羊は草の葉部分を食べるのに対して、山羊は根こそぎ食べてしまうので、砂漠化の原因になっているという問題も起きています。山羊が除草目的で放牧されることもあります。

獣毛の中でも大変繊細な繊維ですから、着用に当たっては摩擦に十分に注意してください。

絵画の中の洗濯風景

フランクルの市場と洗濯場

Mercato e zona per il bucato nelle Fiancre



ヤン・ブリューゲル(1620年) プラド美術館蔵

この絵画は洗濯場と題されていますが、画面の右全体には大きく広げられたシーツが描かれています。これは綿・麻織物類の漂白を行なっている光景です。

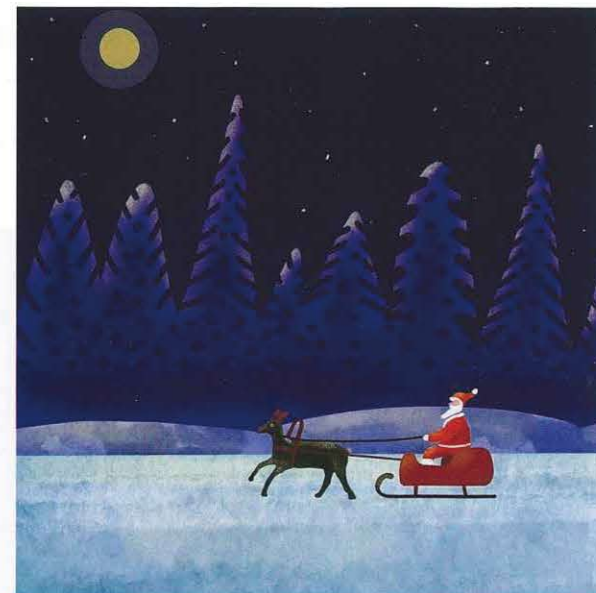
中世の西洋においては洗濯業者と染色業者の仕事が混在していることがありました。これらの作業の中で漂白は重要な仕事で、漂白剤の発明以前には綿・麻織物の漂白には天日干しによる紫外線が効果的でした。

日光で印刷物やカンパンの色が褪色するのは、おもに紫外線の光化学作用によるものです。紫外線には、このように色素を分解して漂白するという効果があります。この太陽光の紫外線を利用することによって綿・麻織物のシーツ類を漂白していたというわけです。

暮らし応援ニュースレター

HomeDry News

ホームドライニュース No.118



●絵画の中の洗濯風景:フランクルの市場と洗濯場

●ファッション素材のちょっと・ウンチク:カシミア

●繊維と服飾の物語:

ベルベットの性質と注意点

●なるほど納得!衣生活の知恵

クローゼットに今年の湿気が溜まっています

まごころクリーニング
ホームドライ ホームドライ

繊維と服飾の物語



ベルベットの性質と注意点

ベルベットの紀元は古く13世紀・イタリアに遡ります。威厳と気品ある美しさを持つ織物の宝石として、王侯貴族たちから愛されてきました。

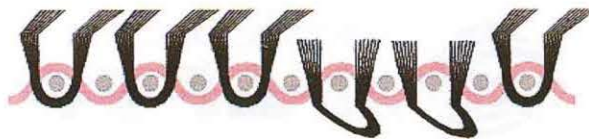
ベルベット (velvet、ビロード) とは、絹、レーヨンなどによる、織細で光沢のある起毛素材です。ちなみに、綿パイル織物は別珍とよばれます、



●パイル抜けは裏からの摩擦で発生

ベルベットには、V字パイルとW字パイルという織り込み方があり、W字パイルはパイル抜けが発生しにくい構造ですが、密度が粗く光沢が劣るなどのファッション性に乏しいという面があります。このため、ファッション素材としてのベルベットは、多少パイル抜けが発生しやすいV字パイル素材が一般的になっています。

表からの擦れには強い → →



裏からの擦れには弱い → →

パイルは原則的には、表面からの摩擦などの力によって抜けるケースは少ないのです。基布の緯糸に留められていることなどから、摘んで引き抜こうとしても抜けません。しかし、生地裏側から摩擦を繰り返すと徐々に抜けてきます。1本でも抜けると、織組織が緩んで、一層抜けやすくなり、隣接するパイルが抜けていきます。特に、クリーニングの洗浄工程やタンブル乾燥工程などによって抜けていくことになります。

通常の着用状態では、裏地があることから直接生地裏が摩擦されることは無いように思われますが、実際にはポケットに携帯電話やキーケースなどを入れるとポケット袋越しに硬いもので摩擦を繰り返すことになります。

このことから、ベルベット製品のパイル抜けは、ポケット袋の底辺に当たる部分で発生しているケースが多いといえます。受付時には必ずその部分をチェックする必要があります。これを見逃すと、クリーニング後に、損傷が拡大します。



ポケット底辺部に発生したパイル抜け



クローゼットに今年の湿気が溜まっています

今年は全国的に大量の雨が降り湿気の高い日が続きました。乾燥した秋の日に、衣類の湿気を追い出しましょう。



昔からの暮らしの知恵に「虫干し」があります。湿気を衣替えの時期に収納から発散させてカビや虫食いの害から守ります。

クローゼットや収納ボックスから衣類を取り出しハンガーに掛けて、窓を開けて乾燥した外気にさらします。しかし現代は、汚染された外気を入れるよりも、空調機を除湿モードにし、サーキュレーターや扇風機で風を送りながら、衣類の湿気を取りましょう。

合成皮革やラメ加工、ボンディングのコートやダウンジャケットなどは特に湿気によって、加工に使われている合成樹脂や金属が化学的に変質しがちです。ファッション性の高い衣類ほど除湿が必要です。